

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着サービスの意義を職員全員で確認し、事業所全体としての質の確保に取り組む上での理念を作っている。	○	これまでの理念を見直し、安心した地域の生活の継続、関連性の継続を支えるための柔軟な支援を事業所の理念を加えた。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員同士の申し送りやミーティングの際に理念にふれ確認しあうようにしている。事業所で働く職員一人ひとりが日々理念について意識し職員間で話し合いの機会を持ち意見の統一をはかるようにしている。		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族の訪問時には、折に触れ理念を確認するようにしている。利用者を支えていくにはご家族や地域の人たちの理解と協力が不可欠なため、常に日頃から多様な機会をつくり、事業所の実践を行えるようにした。		
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の神社や買い物にでかけ、近隣の人たちと挨拶を交わしたり話をしたりしている。	○	近隣の人が気軽に来苑できるように行事を開催していざというときに助けてくれるようななじみの関係、孤立していないという安心感を築いていくよう心がける。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所に近隣の藍住東小学校の生徒さんがこられ、楽器演奏や劇などをしてくださいました。	○	地域の祭りや行事に積極的に参加させて頂くようにし、地域の一員として暮らしていくようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者の支援を基盤に事業所として地域の高齢者の暮らしに役立つような取り組みがまだ、まだできていないですが、ヘルパーさんの研修の受け入れは積極的に行っています。	○	認知症対応型の施設として、老人会や勉強会に参加できるように情報の収集をします。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的、外部評価の結果をミーティングで報告し職員の意識あわせ反省を行い、具体的な改善方法を話し合い取り組んでいる。自己評価を全職員で行いサービスの質の向上に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、現在取り組んでる内容を役員に報告し、意見をもらい、改善すべき内容は、職員全員で話し合い実践しています。会議の内容を記録し、職員はいつでも確認できて実践し再評価できるような体制にしています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当と連絡している。市町村と連絡、改善内容が各職員に改善できるよう連絡しています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者や家族等に権利擁護に関する制度の勉強をしています。	○	職員に勉強会をし権利擁護の制度の理解をふかまるようにしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングを実施し高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に取り組んでいる。	○	高齢者虐待関連法について学ぶ機会をもち虐待が、見過ごされないように注意を払い防止に努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとっていいに説明している。医療連携体制の実際については詳しく説明して、同意をえるようにしている。契約時には、事業所のケアに関する考え方、取り組み退居を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所側から利用者本人の意見、苦情を出しやすいように働きかけている。利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心がけている。その時々々の不安な意見等は各ユニット毎に話し合いを行っています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	心身の状況について何らかの変化や問題が起きたときに必ず、きめ細かく報告しています。毎月、担当スタッフにより家族便りに現在の報告をしたり電話などで報告しています。金銭管理は出納帳に記録サインをもらっています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設け家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みを作っている。苦情への対応で終わりなくその苦情発生要因を探り、課題を検討して質の向上を目指す取り組みをしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関して職員から提案があれば採り入れています。職員の運営に関する意見を聞く機会を特別につくってはいない。	○ 意見を聞く機会を会議式や座談会のような場を作りたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	要望に応えるようにつとめています。	○ 利用者や家族の意見を聞く機会をつくりたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の入れ替えはあまりない。	○ 今後もなじみの関係を作ります。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護に関する研修には、参加できるようにしています。	○ 法人内での研修は今後の課題です。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、同業者、医師会等にて交流しています。	○ 管理者、職員が地域の同業者との交流や勉強会、交流会を今後行い、質の向上をはかりたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者や職員のストレスの軽減の為に環境づくりや工夫して頂いている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の努力や実績に目を向けるようつとめている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの利用について相談があった際は、本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合って職員が本人を受け入れられるように関係づくりにつとめている。事業面談で生活状態を把握するようにつとめ利用者によっては、通所で利用してもらいご本人の求めていることを理解しようとしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか、事前に話し合いをしている。家族の苦情や今までのサービスの利用状況などこれまでの経緯についてゆっくり聞くようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っていることや不安なことに対し、できることは、すぐに実行してできないことでも安易に逃げずに方策を考えている。早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては、地域包括支援センターや事業所のサービスにつなげています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者一人ひとりが安心してサービスを利用できるよう相談の時点から利用にいたるまで利用者の視点に立って柔軟に支援している。本人や家族が事業所を見学してもらうことから始めスタッフが自宅に出向いたり遊びに来てもらったりしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の喜怒哀楽に関心を寄せつつ支援する側、支援される側という意識を持たず穏やかな生活ができるようにしている。	○	年長者である利用者から生活の技や生活の文化の大事さを教えてもらえる場面をつくり支え、支えられる立場を築いていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め本人と一緒に支えるために家族と同じ思いで支援しています。家族からの意見をふまえてミーティングを開き職員一人ひとりの納得した状況で接しています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人とのつながりを深めていけるように事業所での暮らしや介護にも家族が関われる場面や機会づくりをしています。家族、本人の思いや状況を見極めながら、外出や外泊で家族と一緒に過ごすことを勧めたり、行事に家族を誘ったりしながらより良い関係を継続的につとめています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している、美容院に行ったり、電話や手紙での連絡を取り持って支援している。地域で暮らすなじみの知人友人の家に遊びに行ったり継続的な交流ができるように働きかけています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	サービスの利用が終了された方も行事に招待したり、遊びに来てもらうように心がけている。お茶や食事の際、職員もしっしょに多くの会話を持つように働きかけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの利用が終了された方も行事に招待したり遊びに来てもらうように心がけています。サービス利用期間のみの関わりでなく、終了後利用中に培った関係を基盤にしながら継続的なフォローをしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ把握に努めている。言葉や表情から真意を推し量り、また、ご家族や関係者、経歴などから情報を得るようにしている。本人にとってどこで、誰と、どのように暮らすことが、最良なのかを家族を交えて検討しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の為のケアに活かすという目的とプライバシーへの配慮を忘れないようにつとめています。プライバシーに配慮を持って、職員が本人や家族と馴染みの関係を築きながら、接して行くように心がけている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者ひとり一人の生活リズムを理解するとともに行動や小さな動作から感じ取ったり、残存能力に注目しその人全体の把握に努めている。利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに行動や小さな動作から感じ取り本人の全体像を把握しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月担当会議をしています。	○	介護の計画に今後も反映していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は6ヶ月の見直し、急激な変化があれば随時行う。	○	家族との話し合いが少ないように思われる。これからは、家族との連絡を今以上にしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事、水分量、排泄等、身体的状況を記録しチェックしています。いつでも全ての職員が確保できるように勤務開始時に申し送りミーティングしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、その時々々の要望、急な受診の送迎や付き添い、家族を家まで迎えにいたり、柔軟に家族的つきあいができるように努力しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方には運営会議に参加して頂いています。また広く当苑を知って頂けるように、パンフレットを藍住町内のかたに送付しています。	○	民生委員の方がもっと来やすいような環境を考えるようにする。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネとの交流はまだありません。町内の支援事業所にパンフレットを送付しています。	○	他のサービスが利用できるようにケアマネとの交流を密にしていく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は長期的なケアマネジメントや権利擁護などのことについて、地域包括支援センターとは協働していません。運営会議に参加して頂きました。	○	権利擁護や長期的なケアについてのアドバイスを頂けるよう体制を築く。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常時協力医院と連携をはかっています。利用者が安心して入院できる病院を確保しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医療機関があり、適切な指示や助言をうけ迅速な対応や治療を可能にしている。行政や地域の医療機関関係者の支援を得ながら、今以上によりよい対応ができるようにとめている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	森本医院より、看護師を配置しており、常に利用者の健康状態の管理や状況変化に応じた支援を行えるようにしている。夜間は、看護職員と介護職員とはいつでも相談連絡できるようにしている。些細な変化でも、介護記録に記入、看護師に報告するように徹底し、看護師にも利用者の状態を把握できるようにとめている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の細かな情報(介護職員が知り得た情報)を医療機関、関係者に伝え、医療機関内の混乱を防ぐようにしている。入院中は、頻繁にみまいに行くようにし、その際、医療関係者と情報交換を行い、施設内で対応可能な段階でなるべく早く退院できるようにアプローチしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人と家族との思いの変化に応じて、事業所とともに繰り返し話し合いを行い、本人と家族の安心と納得が得られるようにしている。	○	早期からの話し合いの機会をつくり、方針や支援の具体的な内容を検討し、関係者全体の方針の統一を図っていくようにしていく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の意向をふまえ重度や終末期の利用者を支えるためにチームの連携、職員の力量諸条件を備え、他の利用者の影響を考慮して対応している。医療機関とともに密に連携を図り、急変した場合でもすぐに対応できるようにとめている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者の環境や暮らし方の変化によるダメージが最小になるようにアセスメント、ケアプランや支援状況等を他の事業所に伝え、暮らしのケアの継続が保たれるようにとめている。	○	利用者及び家族の意見をふまえた上で、移住先の生活環境や介護の継続性に配慮し、必要な援助を行うようにとめていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	他の家族や外来者に対して職員が本人のプライバシーに関することを他言しないように徹底している。	○ ミーティングの折に職員の意識向上を図るとともに日々の関わり方を点検し利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応の徹底をはかるようにつとめる。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者にあわせて声かけ意思の表示が困難な方には、表情やことばなどから表情を読み取るようにしている。職員側で決めたことを押しつけず、複数の選択肢を提案して一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作るようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながらその日その時の本人の気持ちを表情や言葉などからくみ取りできるだけ個別性のある支援体制を行っている。	○ 買い物散歩、状態や思いに配慮しながら柔軟に対応できるように心がける。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の体調、好み、気温差など適切に対応できるようにしている。利用者のなじみの美容院で希望にあわせてカット、パーマをしてもらえるような連携をとっています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れ季節感をだすように工夫しています。メニューも利用者と相談しながら畑でとれた野菜も使い一緒に手伝ってもらっています。調理、盛りつけ片づけ等も利用者と一緒にいき食欲をたかめ食事を楽しくするような配慮を心がけている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの嗜好物を理解しており本人の様子や体調に配慮しながらそれらを楽しめるように支援していく。一人ひとりの好みや意向を大切にするとともに、それを好まない周囲の利用者の配慮と本人との調整を行うようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握してできる限りトイレで排泄するように支援している。	○	一人ひとりのサインを全職員が把握しあからさまに誘導ではなくさりげなく早く、周囲に気づかれないように配慮を心がける。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前に健康状態を確認して行っています。	○	入浴日を一方的に決めずに利用者の希望を聞き体調面、精神面でも気を配りながら入浴支援を心がけていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠パターンを個別で把握し生活リズムをつくり安定して眠りが導けるような支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの能力や経験や個性をいかし出来そうな仕事を頼み、手伝ってもらっています。「ありがとう」と感謝の声かけを忘れないようにしています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持っている人もいるので買い物に出かけたり喫茶店に行ったりしている。「何々を買ってきて欲しい」と言われる利用者にはお金を預かって出納を明記している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて季節を感じてもらえるよう、散歩、買い物、ドライブ等に出かけている。車椅子の方も積極的に屋外に連れだし気分転換を図っています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者がどこに言ってみたいかを尋ね、訪問が実現できるよう取り組んでいきたい。遠出は家族の方と相談し協力を得ながら実現できるように検討し支援につなげている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	気にしないで電話が使えるように設置場所を工夫している。利用者の希望に応じ手紙、電話、にて状況報告できるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の方もいつでも訪ねて来られるように気軽に気安い雰囲気を作るように心がけています。家族が利用者の方と親密な時間を過ごせるように配慮しています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及びすべての職員が具体的に勉強会をして身体拘束の知識を勉強して、身体拘束しないケアに取り組んでいます。	○	身体拘束をしないケアを引き続き行うようにする。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の外出の癖やその日の状態をつかみ職員の見守りを徹底し日中は鍵をかけず自由なくらしを支援している。利用者が外出しそうな様子を察知したら止めず、一緒についていき、自由なくらしを支えるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながらさりげなく全員の状況を把握するように努めている。夜間は数時間毎に利用者の様子を確認しすぐ対応できるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に照らしながら厳重に保管すべしもの、保管管理がひつようなもの、利用者が使うときに注意が必要な物等にわけて管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを記録し職員の共有認識をはかっている。万が一事故が発生した場合には、事故原因の今後の予防対策について検討し、家族に報告を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員が事故発生時に慌てず適切な対応ができるように身につけて行かなくてはならない。	○	すべての職員が応急手当の勉強会を実施し体験、体得、習得するよう、取り組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認。消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。	○	事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練を定期的に取り組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	自由な暮らしの中で大切さ、事業所の取り組みを家族の方に説明し理解を得るようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の普段の状況を職員は把握しており変化が見られた時はバイタルチェックを行い、記録している。状況により医療受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し全職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、きちんと服用できているかを確認を常にしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排便できるよう食材の工夫や運動を働きかけている。どうしてもできない場合は、下剤や浣腸を使用している。	○	なるべく自然排便できるように個々の原因を探り家族とも相談しながら対応していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性をすべての職員が理解し毎食後の歯磨き義歯の洗浄など何らかの口腔ケアの支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェックして記録し職員が情報を共有している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所は、起こりうる感染症について、マニュアルを作成し職員で予防対策につとめている。利用者及び家族に同意をいただき職員ともにインフルエンザの予防接種を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮で安全な食材を使用するために、毎日買い物に出かけなるべく買いだめしないようにしています。食材の残りは鮮度や状態を確認し冷凍したり処分しています。まな板やふきん等は生活を第一として心がけています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には、季節の花を生け、明るい雰囲気になっている。また、庭にはベンチをおきお茶を飲めたりするスペースを作っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置は利用者の方とともに考え、居心地よく自分の住んでいる家だという意識を高めてもらえるような工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭にテーブル、ベンチを置き、一人で過ごしたり仲のよい利用者同士でくつろげるスペースを作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れたなじみの家具や日用品など持ってきてもらい居心地よく生活できるように配慮している。	○	本人の持ち物が少なく家族の協力が得られない場合でもその人らしく生活できるように支援して行きたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者一人ひとりの状態を把握し発汗の様子や冷えなどに気をつけて調節するように心がけている。トイレは換気扇と消臭剤で悪臭が出ないようにくふうしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態にあわせて段差を少なくし手すりを設置するなどにして転倒予防に努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	何がわかりにくいのかを追求し環境整備に努めています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花を植えたり、畑で野菜をつくり食事の材料に使ったりしています。また、ベンチを置き日光浴できるように工夫しています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

苑内には四季折々の花が咲き、家庭菜園には旬の野菜が収穫できています。天気の良い日には神社にお参りに行ったりしています。